無　料　公　開　講　演　会

IEC Forum

人を守る仕事：国際政治の中の人道支援活動
ー国際人道支援活動の現場：
国際赤十字と UNHCR での活動経験からー

講師

佐藤滋之氏

茨城県出身。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)スーダン事務所首席保護官(2014 年 6 月まで)。東京学芸大学教育学部を卒業後、インド国立デリー大学への留学を経て、英国ブリストル大学大学院修了。1997 年から国際赤十字赤新月社連盟で自然災害救援活動を中心に 8 ヶ国で働く。2002 年に UNHCR に加わり、以来ケニア・リベリア・パキスタン・フィリピン・タンザニア・スーダン(ダルフール)で勤務。UNHCR では主に難民・国内避難民保護と第三国定住を担当する。現在は、博士論文作成のため研究休職中。

懇親会参加希望の方は、飲食物の持込可。各自、事前にご用意ください。講演会、懇親会とも参加にあたっての予約は不要です。

四ッ谷駅徒歩３分

Lecture outline

冷戦の終結は人々の待ち望んだ世界平和を決してもたらさなかった。世界各地で頻発する武力紛争は今日なお多く人命を奪い、人々は平和な暮らしを奪われ、国外難民・国内避難民となることを強いられている。かつて東西イデオロギー対立の時代には、東西両陣営からの政治的意図による支援がある程度まで南の国々を支えてきた。しかし冷戦解消とともに両陣営からの支援も消滅し、南の国々の中には、国内の安定や社会サービスの供給の能力をもはや持たない「脆弱国家」「破綻国家」と呼ばれる状況に陥る国も多くある。そのような状態から逃れるために、生命の安全と豊かな暮らしを求めて祖国を離れ、遠い先進諸国に向けた危険に満ちた長旅に向かい、その途上で命を落とす者も後を絶たない。他方で、地球規模で進行しつつある環境変動の中で、自然災害の猛威は南の国々の社会の弱者に、より甚大な被害をもたらしている。このような全地球規模での惨状に対して、国際機関の救援・支援活動はどのように展開され、またどのような成果を挙げ、またどのような制約や障害に直面しているのか。また国際救援活動に参加する日本人にはどのような資質、技術、語学力が要求されるのか。このような活動に参加希望の日本人男女青年に対する講師からの助言です。

講師の佐藤滋之氏は 17 年間にわたり、世界各地で紛争や自然災害により引き起こされた人道危機の最前線で人道支援に従事されました。今回の講演ではその経験をもとに、冷戦後の世界に起こった人道支援活動空間の変質や、新たに出現してきた人道活動上の諸問題、そして国際政治が人道支援活動に及ぼす影響などについて解説して頂きます。

2015 年 1 月 17日(土)

講　演　会：　18:00～19:30
懇　親　会：　19:30～20:30

国際教育振興会-日米会話学院
2階216号室

問合せ：一般財団法人国際教育振興会　日米会話学院・日本語研修所
東京都新宿区四谷 1-21　Tel 03-3359-9621　Fax 03-3353-8908
International Education Center
www.nichibei.ac.jp
www.iec-nichibei.or.jp